

# 栃木の国有林

令和8年度版

## 概要



栃木県内の国有林は、日光森林管理署（以下「日光署」）が鬼怒川流域及び渡良瀬川流域を、塩那森林管理署（以下「塩那署」）が那珂川流域を管理し、その面積は、栃木県の北西部を中心に約12万6千ヘクタールあり、県内森林面積の約36%となっています。

国有林面積の約91%が保安林であり、水源林として、また土砂流出防備等の観点から重要な役割を担っています。

さらに、約67%が保護林や緑の回廊に指定され、約60%が日光国立公園等の自然公園に指定されているなど、生物多様性の保全や観光の振興の面からも貴重な森林を有する地域となっています。

## 栃木県内国有林（日光署・塩那署）での重点取組（トピックス）

### 森林・林業施策全体の推進への貢献

#### 1. 施業効率化を目指した取組の推進

- ✓ 特定苗木・早生樹の現地適用を推進
- ✓ 大苗を活用した無下刈施業により造林初期投資の軽減を検証
- ✓ 現地検討会等を通じ地域課題の解決や技術力向上に向けた取組を推進

#### 2. 木材の安定供給

- ✓ 国有林材を計画的・安定的に供給

### 公益的機能の一層の発揮

#### 3. 重視すべき機能に応じた管理経営

- ✓ 木材生産と生物多様性の両立を目指す

#### 4. 森林生態系の保護・管理

- ✓ 地域と連携してニホンジカ対策を推進
- ✓ 地域と連携した希少植生の保全・再生
- ✓ 那須街道アカマツ林の保全

#### 5. 国民の安全・安心の確保に向けた治山対策等の推進

- ✓ 治山事業を通じて国土強靱化に貢献

### 国民の森林（もり）としての管理経営

#### 6. 国民の森林（もり）としての管理経営

- ✓ 栃木県林業大学校へのフィールド提供を通じて林業人材育成を支援
- ✓ 国民参加による森林づくりを通じ地域の活性化に寄与

## 1. 施業効率化を目指した取組の推進

### 特定苗木・早生樹の現地適用に向けた取組を推進（日光署）

本格的な主伐期を迎える中で、再造林コストを低減していくには、早く大きく成長する造林樹種の選択の幅を広げていくことが必要です。

日光署では、「森林・林業・木材産業の試験研究・技術開発等に係る日光森林管理署と栃木県林業センターの連携・協力に関する協定」を締結して鞍掛国有林（日光市）に栃木県産の特定苗木<sup>(注)</sup>や、ユリノキ、ヤマハンノキ等の早生樹の試験植栽を開始し、共同して成長量等のモニタリングを行っています。さらに隣接する国有林には、静岡県産の特定苗木と従来のコンテナ苗を植栽予定であり、このエリアを特定苗木・早生樹の植栽モデルとし得られた成果を普及していきます。



特定苗木及び早生樹等次世代林業に向けた植栽試験地

(注) 成長が良く（通常の1.5倍以上）花粉が少ない（通常の半分以下）など優秀な遺伝子を持つ苗木、栃木県産の特定苗木は、令和8年秋より供給が開始されます。

### 大苗植栽・無下刈により造林初期投資の軽減を検証（塩那署）

植栽した苗木を健全に育てるため雑草木を除去する下刈は、主に夏季に行われ炎天下での長時間の作業は過酷なものであることから、林業における労働力確保にとって大きなネックとなっています。

林業の成長産業化に取り組んでいる矢板市は、国有林をフィールドとして、スギ大苗を植栽し下刈の省略が可能か検証試験を行っています。

無下刈状態で5年が経過し、大苗の成長と雑灌木の状況のデータを蓄積するとともに民有林関係者との現地検討会等を実施し、無下刈施業が造林事業の省力化、低コスト化につながるかを検証していきます。



無下刈地で雑灌木より成長したスギ大苗

### 現地検討会等を通じ地域課題の解決や技術力向上に向けた取組を推進（日光署・塩那署）

日光署・塩那署と栃木県の森林総合監理士（フォレスター）及び担当者による「とちぎフォレスターズネットワーク」（事務局：日光署）では、様々な課題やテーマに沿った現地検討会や勉強会を企画・実施しています。

令和8年度は、活動の一層の充実に取り組み、優秀な遺伝子を持つ特定苗木や成長が早い早生樹の現地適用、広葉樹材の高付加価値化、広葉樹を活かした森林づくりなどをテーマとした現地検討会や勉強会を計画しています。

現地検討会や勉強会には、栃木県内の市町や林業関係者にも参加を呼びかけ、民有林と国有林が連携して地域課題の解決や技術力の向上を推進していくこととしています。



令和7年11月に開催した、ニホンシカ・ツキノワグマの生態と効果的な獣害対策検討会の模様

## 2. 木材の安定供給

### 国有林材を計画的・安定的に供給（日光署、塩那署）

栃木県内の木材需要動向を踏まえながら、国有林材を計画的に供給します。

地域の木材市場での委託販売や伐採現場付近の山元土場での委託販売などにより木材を安定的に供給するとともに、国産材の需要拡大等に取り組む大口需要者に対しては、協定に基づいて木材を計画的に供給する「国有林材の安定供給システム販売」を進めます。

また、主伐後の造林の実施を協定に含む立木のシステム販売にも取り組みます。



カラマツの間伐材を積んだ山元土場

### 3. 重視すべき機能に応じた管理経営

#### 木材生産と生物多様性の両立を目指す（日光署）

すべての森林は、多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与しています。

主伐期を迎えたスギ等の人工林の皆伐に当たり、尾根筋や溪畔周辺などに加え、伐区内に単木的に生育している広葉樹を保残し、木材生産と生物多様性保全の両立を目指す「保持林業」の検証を進めていくこととしています。

伐採跡地では、ノウサギなどの草食性の動物も増えており、植栽木への食害も課題となっています。保残した広葉樹が猛禽類の餌を探す際の止まり木などとして利用されれば、植栽木の保護対策につながるものと期待しています。



人工林内の広葉樹を保残し生物多様性の保全に寄与

### 4. 森林生態系の保護・管理

#### 地域と連携してニホンジカ対策を推進（日光署）

奥鬼怒生物群集保護林（日光市）内にある鬼怒沼（国内希少種をはじめ希少な植物群落を有する高層湿原）では、近年急速にニホンジカによる食害が進み、貴重な植生が失われつつあります。

このため、日光地域シカ対策共同体（栃木県、日光市、環境省、日光署により組織）の枠組みにより、現地検討会を行って対策を検討し、試験的なシカ侵入防止柵を設置して植生の変化等のモニタリングを行い、今後の対策を検討しています。



各機関の職員の協働により侵入防止柵を設置

#### 地域と連携した希少植生の保全・再生（塩那署）

那須塩原市の大沼や沼ッ原湿原には、ニッコウキスゲやミズバショウ、ザゼンソウなど希少な植物が生育していましたが、近年はニホンジカの食害によって、その多くが見られなくなりました。

このため、塩那署では那須塩原市やボランティア団体と協定を締結し、令和6年度に大規模な防鹿柵（大沼 約2,800m、沼ッ原湿原 約1,000m）を設置しました。現在柵内では植生の回復がみられており、今後も植生の再生を検証していきます。



防鹿柵により再生したミズバショウ

#### 那須街道アカマツ林の保全（塩那署）

那須街道の玄関口となっている国有林には樹齢100年を超えるアカマツが道路沿いに林立し、街道を代表する景観として親しまれてきました。しかし近年は松枯れ被害の進行が激しく、減少の危機に瀕しています。林内には猛禽類の営巣木があるため、猛禽類の繁殖のステージに配慮した松くい虫対策を実施し、アカマツ林の保全を図ることとしています。

また、次世代のアカマツ林を育てることを目的として、地元の高久小学生やボランティアによりアカマツ苗の植栽も行っています。



## 5. 国民の安全・安心の確保に向けた治山対策等の推進

### 治山事業を通じて国土強靱化に貢献（日光署・塩那署）

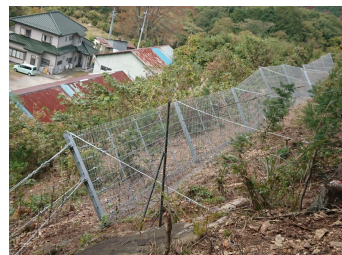
台風や集中豪雨等による山地災害から国民の生命・財産を守るため、山地災害危険地区や氾濫した河川上流域等において、流木・土石流・山腹崩壊の抑制対策等を推進し、災害に強い森林づくりにより、国土強靱化に向けた取組を進めます。

下桐久保沢地区（日光市）は、平成27年度の集中豪雨により直下へ大量の土砂を流出させた崩壊地です。災害直後から復旧工事を進めています。

小原地区（日光市）は、落石発生が懸念され、直下の人家等へ被害を及ぼすおそれが高いことから、落石防護柵工等による予防治山工事を行っています。



下桐久保沢地区復旧治山工事



小原地区予防治山工事

署名	市町名	予定箇所数	工事内容
日光	日光市	3	谷止工1基、山腹工0.20ha、流路工80m
	鹿沼市	1	谷止工1基
塩那	那須塩原市	2	コンクリート谷止工1基 山腹工0.05ha



東荒川上流復旧治山工事



清水沢地区予防治山工事

## 6. 国民の森林（もり）としての管理経営

### 栃木県林業大学校へのフィールド提供を通じて林業人材育成を支援（日光署）

日光署では、栃木県と締結した「林業人材の確保・育成に向けた連携及び協力に関する協定」に基づき、栃木県林業大学校への研修フィールドとして国有林の活用を進めています。

令和8年度は、林業大学校の近郊にある鞍掛国有林（日光市）、金山国有林（宇都宮市）などにおいて、下刈、保育間伐の作業実習のほか、立木調査や森林の見方を学ぶ様々な研修プログラムが計画されており、栃木県と連携して林業人材の確保・育成を図っていくこととしています。



栃木県林業大学校の実習の様様

### 国民参加による森林づくりを通じ地域の活性化に寄与（日光署・塩那署）

多様な森林整備や保全活動に対応した森林づくり活動の場として、ボランティア団体等と協定を締結してフィールドの提供や技術支援を行う「国民参加の森林づくり」を進めています。

日光署では、令和7年5月に奥日光国有林（日光市）のスキー場跡地において、「多様な活動の森」の協定を締結しました。ここでは、森づくりの体験活動として首都圏などからボランティアを募り、地元関係者との交流を深め、地域全体での活性化を推進しています。これまで、特定外来種（オオハンゴンソウ）の除去やニホンジカの影響を排除するための柵の設置等を進めており、平成8年度は周辺から採取した種子を育苗して植栽し、本来の自然本来の植生である広葉樹の森へ移行させていくこととしています。



ボランティアによる特定外来種（オオハンゴンソウ）の除去の様様